操上牧場 交配相談レポート

～情勢に左右されない「搾れる牛」へ～

今回は平成23年から当団の交配相談サービスを利用していただいている富良野市の操上牧場で、その活用法や改良方向などをお聞きしました。

ちょうど訪問前日が牛群検定（乳検）でしたが、1頭当たり平均乳量は40.2ｋｇと高く、年間検定乳量12,500ｋｇ、体細胞数5.8万、分娩間隔420日を維持されている高泌乳牛群です。また育成管理も徹底されており、平均初産分娩月齢は23カ月となっています。

交配相談サービスを始めたきっかけはなんですか？

元々は日本ホルスタイン登録協会北海道支局が発行している近交回避システムを利用していました。平成23年に上川地区の乳検連総会でＧＨから交配相談サービスの紹介があり、近交回避とは違い改良量が表示されるとのことだったので富良野の乳検全体で取り組んでいくことになりました。授精師さんがとても協力的なので、富良野全体で継続できているのだと思います。（現在は38戸が実施）

改良目標に「ＮＴＰ」と「産乳成分」を設定されている理由はなんですか？

ＮＴＰは全体改良ができるバランスのいい指標です。様々な意見がありますが種雄牛のランキングも最終的にはＮＴＰが指標になっています。今の牛は乳器もどんどん良くなっていて、昔に比べて、乳房はコンパクトで小さくなったのに乳が出るようになりました。ＮＴＰで上位の牛を選んでいれば必然的に乳器は良くなっていっている印象です。肢蹄は削蹄や牛床の状態など環境の影響が大きく、繁殖も管理の部分が大きいと思っています。

また、うちはＴＭＲを給餌しており個体管理ではなく一群管理です。同じ餌の量に対して、反応（乳量）がバラバラだと管理が難しく、それで困っている牧場をたくさん見てきました。そのため牛の反応が同じになるように統一したいという目的もあり、この形質に設定しています。

近交係数の上限値を6.25%ではなく7%～8%程度を希望されていますが。

6.25%以下で設定してしまうと、6.25%よりも高い牛は一切表示されなくなります。改良量が近交退化量を上回っていることが重要であると思っていますが、急激な上昇は避けたいため、そのバランスを考えながら多少近交係数の高い組合せも表示されるようにしてもらっています。最初に種雄牛の能力はもちろんのこと、ファミリーに対して血統が近すぎない種雄牛を選ぶのも重要です。



取材を受けてくださった操上徳志さん、隆明さん、敏江さん

当団の交配相談では近親交配や遺伝病の発症を避けるため、近親交配の基準とされている上限値6．25％の設定を基本としています。近交係数の上限値を上げる場合には、操上牧場のように種雄牛選択の際に系統を考慮したり、改良量の高い種雄牛を選択することを前提としています。

今使っている種雄牛はなんですか？

今使っているのは産子を見てみて良かったのでギヤラクシーをもう一度利用しています。あとはレガリア、エレベーションヨン、エモーションヨンなどです。マツクイーンは今搾っていて、乳房がとても良いのでもう1回使いたかったと思っている牛です。今はうちのファミリーにはほぼ国産種雄牛を使っています。ショウで評価の高い海外の種雄牛情報なども入ってきますが産乳能力が低い場合は絶対に使いません。例えばゴールドウインは体型が優れているのは認識していましたが、ゴールドウインの体型の良さに能力を兼ね備えた息牛が出てくるのを待っていました。それで使ったのがスパークリングです。その頃ゴールドウインをまったく使用していなかったのでうちの牛群にはアウトクロスでした。交配相談で近交係数も6.25％以下で1頭だけ推奨されていたのを授精して生まれたのが「フレツシユ　シエネル」(2歳　15,204ｋｇ　02-02　85.0)です。



フレツシユ　シエネル(父:スパークリング　母の父:ＦＢＩ)

交配相談を利用してみてどうですか？

毎年着実に乳量が伸びています。最近はバルククーラーも大きいサイズに更新しました。飼料価格や個体販売額は変動が大きく波があります。今は少し落ち着いているというか高値に慣れてきてしまったけれどまた高騰するかもしれません。そのため個々の牛の能力を高い水準で揃えておくことはとても大事だと思います。

現在市場では高値が続いていますが、操上牧場では以前よりＦ１や黒毛受精卵は一切使用せず、性選別精液を積極的に利用しながらホルスタインのみを授精されていました。経産牛58頭に対して未経産牛70頭という割合も納得です。また過去の雌牛の個体データや交配相談の情報を用いて牛群に残す牛を選抜しているとのことでした。

素晴らしい経営の中に、交配相談を組み込んでいただき、雄側からの遺伝的な部分の改良を担うことができていることがとてもうれしく思いました。

今回はお忙しい中、快く取材にご協力いただいた操上牧場のみなさまに厚くお礼申し上げます。


フレツシユ シエネルは訪問時、乾乳中でした

(改良情報課　藤元郁子)